

がんばろう、がんばっぺない。

折りしも、市内各中学校で卒業式が行われ、希望を胸に学び舎を後にする卒業生を見送った3月11日。誰もが経験したことの無い長く激しい揺れに襲われた。

浜通りの市町村と比較すれば、道路や水道などの被害は甚大ではなかったものの、それに続く東京電力福島第一原子力発電所の事故により、燃料や食料品など生活用品が不足し、大手スーパーや金融機関のほか民間企業が相次いで休業を余儀なくされたことに加え、原発から20km圏内に入る都路町の一部が避難指示区域となり、震災翌

日から都路町の市民、さらには双葉郡から最大で8千有余人が避難するという、未曾有の非常事態となった。

原発の状況は未だに予断を許さず深刻な状況が続き、事態収束の目途も立たない先行きの不透明さに加え、断続的な余震に日々さいなまれていたなか、どれだけの影響が及ぼされるのか、まさに見えざる放射能に対する不安が市民生活に暗い影を落としている。

さらに風評被害というもう一つの見えない不安の広がりは、農畜作物だけでなくどまらず商工業や観光にま

で波及し、あらゆる分野に深刻な影響を与えている。

とは言え、震災直後から寄せられた全国からの多くの救援物資や義援金、さらには市内外のボランティアの皆様によるご支援など、尊い善意に包まれたこれまでの日々を振り返るとき、やはり日本人の大多数の優しさを、今回ほど強く感じたことはない。

人々のつながりが希薄と言われる現代社会において、奇しくも震災を機として、私たちは強いきずなを感じながら生活している。

あの日から、幾度となく口にし、互いを励ましあつた、短くも心強い、この一言を合言葉に。



(次ページ写真・左上から)

- ・中学校卒業式(常葉中・3月11日)
- ・避難所となった市総合体育館(3月31日)
- ・炊き出しする航空自衛隊大滝根山分屯基地の皆さん(デンソー東日本・3月31日)
- ・古道小と岩井沢小は旧石森小で入学式を迎えた(4月6日)
- ・がんばろう!福島演奏会のようす(4月29日)
- ・卒業証書を授与された小学生(牧野小・3月31日)
- ・姉妹都市アメリカ・マンスフィールド市からビデオレターが届き、ホームステイ等で交流を深めた市民から返事を送った(4月6日)